



制限のない運動会

次の日曜日、天王寺小学校の運動会を開催します。今週の空はずっと雨模様で、当日の天気も心配なのですが、子どもたちには、梅雨空を吹き飛ばすくらいに、練習してきた成果を発揮してほしいと思います。

また、この3年間は、たとえ屋外で行う運動会でも、観覧人数や声出しなどについて様々な制限がありましたが、今年の運動会は、特に制限を設ける必要がなくなりました。ですから、たくさんの皆様にお越しいただき、子どもたちへの精いっぱいの声援と拍手を贈っていただきたいと思います。(混雑が予想されますので、どうか譲り合ってご観覧ください。)

しかし、中には「なんで制限がなくなったはずなのに、以前のようにお弁当を持っての一日開催ではなく、お昼までの半日開催なの?」と思う方がいらっしゃるかも知れません。実は、5月8日の新型コロナウイルス感染症のマニュアル廃止により教育活動を通常に戻す際、様々な方向から学校行事等を見直しました。その一つが運動会です。以前から、学校教育は常にビルドアンドビルドで、〇〇教育などの新しい取り組みが導入されても、代わりに何かを止めることはあまりありませんでした。さらに、コロナ禍が始まったタイミングで1人1台端末が導入されました。ICTの活用は、調べ学習が容易になるなど利点もたくさんありますが、ビルドアンドビルドの要素も持っています。例えば、デジタルドリルを使った学習は、学習の一定の効率化はありますが、すべて置き換えることができないので、結局これまで使ってきた紙のドリルも一部で併用しています。そうした状況の中で、すべてを元に戻すのではなく、学校も、今のスケールに合ったものに作り替えていく必要があると考えました。特に、運動会は、当日だけでできるものではありません。そこに至るまでに何時間もの練習時間を必要とします。ですから、従来していたような形の運動会に戻すことは、子どもたちや教職員の負担が大きいと判断して、昨年同様の規模で実施することにしました。昔ながらの運動会の復活を期待されていた方には、ごめんなさい。

さて、その運動会ですが、今年児童会の子どもたちが決めたためあては、「力の限界を超えて運動会を盛り上げよう」です。一見、天小の教育方針はスバルタ方式か?と思われるかも知れませんが、あくまで子どもたちが考えたものなのでご容赦ください。

私が小学生のころに通っていた学校は、運動会がなく、「体育学習発表会」という名前の行事でした。徒競走にしてもただ走るだけだったので、教員になった時、赤白で競い合う大阪市の小学校の運動会が素敵だなと思いました。ですから、今年も半日開催になったとは言え、



運動会の楽しさは失っていないと思います。力いっぱい演技を披露したり、勝敗を争って一喜一憂したりする運動会の醍醐味は大切にしながら取り組んでいます。

しかし一方で、すべての子どもが運動会を楽しみにしているわけではないことも事実です。勝ち負けがつくということは、勝つ者がいれば当然負ける者もいます。運動に苦手意識のある子どもが、負けた原因になるのを不安に思うことだけでなく、集団で行動するのが苦手な子もいるでしょうし、そもそも体を動かすことが嫌いな子だっているはずです。

だからと言って運動会がなくなるわけではありません。学校は好きなことだけを楽しむ場所ではありません。苦手なことや、しんどいことにも立ち向かって、壁を乗り越えたり、たとえ克服できなくてもその過程で自己の成長を感じたりするところなのです。ですから、運動会が楽しみでない子は、最後までやり切ることを目標にしてほしいと思います。しんどいことを乗り越えた先にしか見えないものもあるはずですから。

あっ、こう書くと、やっぱり天小はスパルタ方式ですか？

あいさつは するもの？ されるもの？

天王寺小学校では、ほとんどの子どもが学校南側の地下道を通して登校するので、私は、毎朝地下道の入り口で子どもたちを迎えています。(週1回は正門に立っています。) 去年転任してきて以来、天小には、挨拶をする子が多いなと感心していました。



しかし、先日挨拶に関するある新聞記事を読んで考えました。「おはようございます」と言う回数は、私も子どももほとんど同じなのですが、どちらが先に言っているかを比べると、圧倒的に私のほうが多いのです。つまり、子どもは私のあいさつに返礼しているだけなのです。子どもたちに「すすんで挨拶を」と言いつつも、私自身がその機会を奪っていることに気づきました。子どもたちに主体性をもってもらおうと思って、学校では子どもはお客さんではありませんと言いながら、私自身が、お客さんに「いらっしゃいませ」と言うがごとく迎えていたのですね。

そこで、児童朝会で、あいさつは「するもの」か「されるもの」かという話をして、子どもから「おはようございます。」と言ってくれるのを待つようにしました。最初は、私がニコニコしているだけなので、「あれっ？」と思った子も多かったようですが、今では「おはようございます」と言ってくれる子のほとんどは私より先に言ってくれます。もちろん、私は、その挨拶にとびっきりの笑顔で「おはようございます。」を返します。ただ残念ながら、こちらから声をかけないので、中には見事にスルーして通る子もありますが、今のところは放っています。挨拶は、本来家庭の躰しつけで身につけるものですから、学校教育の場で「挨拶しなさい」というのもどうかと思うからです。(もちろん挨拶の大切さは教えています。)

ですから、天王寺小学校では、去年と比べて、挨拶をする子どもの数は減ったかもしれません。しかし、自分からすすんで挨拶をする子どもは増えました。私はこれでよいと思います。